

かめ やま
亀山市



- ① 液晶テレビ工場
- ② 坂本の棚田
- ③ 亀山のろうそく工場
- ④ 亀山宿から関宿へ

産業

亀山市

えきしょう
液晶テレビ工場

亀山・関テクノヒルズ工業団地の中に、2002（平成14）年2月に三重県や亀山市が誘致した液晶テレビ工場があります。この工場は液晶パネルから液晶テレビの組み立てまで、一度に生産する世界初の工場です。ここで生産されたテレビは、「亀山モデル」と呼ばれるブランドとなりました。

亀山は古くから交通の要所で、自動車専用道路や高速道路、鉄道などの交通機関が整備されてきました。天理市（奈良県）と多気町（三重県）には、同じメーカーの液晶パネル工場があります。自動車専用道路や高速道路を使うと、約1時間から2時間で行き来できる距離です。また、三重県の「クリスタルバレー構想」により、この工業団地には液晶テレビの関連メーカーが立地するようになりました。

工場の屋上や壁面への太陽電池パネルの設置、排水の100%再利用、雨水の空調への利用等、環境に配慮した工場としても注目を集めています。



液晶テレビの組立（シャープ（株）提供H16年撮影）

- 亀山にこの工場が誘致された理由を調べてみましょう。

地理

亀山市

さかもと たなだ
坂本の棚田

坂本の棚田は、亀山市北部「野登山」南麓の亀山市安坂山町の山間部にあります。この棚田は、約400年前から築かれ始め、明治時代の初期には現在の様な形になったといわれており、大変歴史ある棚田です。現在は面積約23ha、440枚の棚田があります。

棚田を下から見上げると、城の石垣のような石積みが目に入ります。田の法面を費用も手間もかかる石積みでつくっていることが特徴的です。坂本でとれる米は、水の良さと手間ひまかけた栽培のため、「色つやが違う」といわれているそうです。

山の天然水が田を潤して、四季折々に表情を変える棚田の風景が素晴らしく、1999（平成11）年には、農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれました。これを契機に、稲作農家が中心となって40戸からなる「坂本棚田保存会」が結成され、棚田の保全活動を始めました。農家の高齢化が進んでいますが、坂本棚田野上がりまつりや餅つき大会、写生大会など様々なイベントを通して、交流の輪を広げています。



坂本の棚田（亀山市歴史博物館提供）

【→P110*18、P111*32】

- 山あいの地など、自然環境の厳しい場所で作物を作るための昔の人々の工夫について調べてみましょう。

産業

亀山市

亀山のろうそく工場

亀山市内には、ろうそくを専門に製造する工場があります。2007（平成19）年に創立80周年を迎えた伝統的な工場です。現在本社は大阪府ですが、亀山市を中心に工場や商品のショールームがあります。

今では一般的な製品であるスパイラル（らせん状）型キャンドルですが、この工場では、それを第二次世界大戦前につくり、アメリカへ輸出しました。日本一大きいろうそくメーカーであり、国内シェアは約5割あります。世界でも有数のメーカーです。

ろうそくは、古くから明かり用・仏事用として使われてきましたが、このメーカーでは、ろうそくを広めるために様々な工夫をしてきました。その例として、1970年代初めに結婚式のキャンドルサービスを考え出しました。2002（平成14）年にはキャンドルリレーという結婚式のスタイルを発表するなど様々な工夫を続けています。現在では、アロマキャンドルやインテリアキャンドルなど、様々なキャンドルも販売しています。



様々なキャンドル（亀山商工会議所提供）

- あなたの身近にある工業製品には、どのようなメーカーの工夫やアイデアがあるのか調べてみましょう。

かめやまじゆく せきじゆく
亀山宿から関宿へ

亀山・関は古代から畿内と東国を結ぶ交通の要所で、江戸時代には街道としての東海道が整備され、市内には亀山宿、関宿、坂下宿の3つの宿場町がありました。

現在も鉄道や国道、高速道路の分岐点として重要な役割を果たしています。

1482(文明14)年に書かれた文書に「亀山」という文字が見られることから、15世紀の終わりには町が成立していたようです。江戸時代には亀山城下を含めて、露心庵(今の栄町)から京口門(今の西町)までの約2.5kmの範囲が宿場町として発展しました。

亀山城は、1265(文永2)年には今の若山町にありましたが、16世紀中頃に関氏が現在の場所に築いたといわれています。1582(天正10)年の本能寺の変で織田信長が自害した後、台頭した羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)



亀山城下の模型(亀山市歴史博物館提供)

と秀吉に反対する戦国大名たちの勢力争いに、関氏をはじめ北勢地方の領主や武士たちも巻き込まれました。1583(天正11)年2月、羽柴秀吉は3万の軍勢を率いて、安楽峠(石水溪上流部)を越えて、亀山城、峯城(今の川崎町)などを攻めました。江戸時代になると、丹波亀山城とまちがえられて天守が取り壊されたといわれています。しかし、交通の要所であったため、徳川家康や秀忠、家光など将軍が上洛する際の宿となり、亀山城主の多くは譜代大名がつとめました。

多聞櫓は県内唯一の現存する城郭建築であり、亀山西小学校の北には二之丸北埋門と帯曲輪が復元されています。また、亀山市歴史博物館にある模型からも、当時の亀山の様子がよくわかります。

関には、古代三関の一つ「鈴鹿関」が置かれていました。鈴鹿関が歴史に登場するのは672年の壬申の乱の頃で、789(延暦8)年、桓武天皇によって廃止されました。その場所は関町新所とする説が有力で、2006(平成18)年、西の城壁と見られる築地が発見されました。

中世の頃には地藏院の門前町が形成され、次第に宿場町として整備されていきました。現在のような町並みの基礎が築かれたのは、1583(天正11)年に中町が整備された頃だと考えられています。江戸時代には大和街道と伊勢別街道が分岐する宿場町となり、参勤交代や伊勢参りなどの人々で栄えました。江戸時代末の1843(天保14)年には、戸数632戸・人口1942人を数えました。

山車がひき出される夏祭りもよく知られ、最盛期には狭い関宿いっばいに16基もの山車がねり、限界を表す「関の山」という言葉が生まれました。

関宿は、旧東海道の中で唯一歴史的な町並みが残ることから、1984(昭和59)年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。その保存とともに、歴史的な町並みの特性を活かした新しい町づくりに取り組んでいるところです。【→P98】



関町中町の町並み(亀山市教育委員会提供)

【→P110*18、*19、P111*40】

- 亀山宿には家々に当時の屋号や職業の看板をかけるなどして、昔の面影の再現に努めています。あなたが住んでいる地域の昔の面影や様子を調べてみましょう。